様式2

都市再生整備計画　事後評価シート

安岡地区

令和８年１１月

山口県下関市

様式２－１　評価結果のまとめ

都道府県名	山口県	市町村名	下関市	地区名	安岡地区		面積	95ha
交付期間	令和3年度～令和7年度	事後評価実施時期	令和8年度	交付対象事業費	2466.0百万円	国費率	0.436	

1）事業の実施状況

		事業名
当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路（市道安岡冨任50号線、市道安岡冨任26号線）、公園（都市公園）、地域生活基盤施設（誘導サイン、海抜表示、駐車場）、高次都市施設 地域交流センター（安岡コミュニティセンター（仮称））
	提案事業	地域創造支援事業（北部図書館（仮称））、まちづくり活動推進事業（避難訓練、オープニングイベント）

		事業名	削除/追加の理由	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響
当初計画から削除した事業	基幹事業	なし	－	－
	提案事業	まちづくり活動推進事業（避難訓練、オープニングイベント）	提案事業から関連事業へ移行したため。	影響なし
新たに追加した事業	基幹事業	地域生活基盤施設（芝生広場、非常用電源施設）	芝生広場は交流や憩いの目的で地元要望があったため。非常用電源施設は避難所となる複合施設の防災機能を向上させるため。	目標や指標の達成に大きく寄与した
	提案事業	地域創造支援事業（WI-FI設備整備）	複合施設各室での学習や共用部分でのサービス利用、災害時のフリーアクセス利用など、利便性や防災性の向上のため。	目標や指標の達成に大きく寄与した

交付期間の変更	当　初	令和3年度～令和7年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響	－
	変　更	－		

2）都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況

指　標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
指標1	自治会、市民活動に参加している人の割合	人数/年	53,971	R1	70,000	R7		129,196	○	あり／なし	コミュニティセンターや図書館など施設種別を充実させたことにより、地区住民の交流や滞在が増加した。	－
指標2	イベント開催回数	回/年	3	R1	5	R7		104	○	あり／なし	コミュニティセンターや図書館など施設種別を充実させたことにより、多彩なイベントの開催が可能となった。	－
指標3										あり／なし		
指標4										あり／なし		
指標5										あり／なし		

3）その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現状況

指　標	単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
その他の数値指標1											
その他の数値指標2											
その他の数値指標3											

4）定性的な効果発現状況

安岡コミュニティセンターをはじめとする地区の主要な施設整備にPFI手法を導入したことにより、公共施設の建設、維持管理及び運営等に民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用でき、効率的かつ効果的な公共サービスの提供につながっている。また、多彩なイベントの開催等を通じ、地区住民の憩いや交流などの賑わいづくりにも寄与している。

5）実施過程の評価

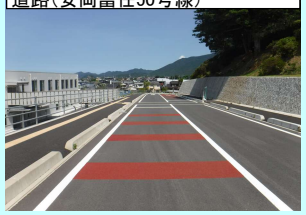
	実施内容	実施状況		今後の対応方針等
モニタリング	施設整備業務（設計・建設）において、業務水準を維持し、必要に応じて改善するよう、事業者と協力しモニタリングを行った。	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	●	維持管理業務及び運営業務においても、モニタリングを行い、業務水準の維持を図る。
官民連携による取組	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
持続的なまちづくり体制の構築	PFI事業の実施に伴う指定管理者による管理・運営	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	●	建設後においても、約15年間にわたる維持管理及び運営等は引き続き指定管理者が主体となって行い、市は定期的なモニタリングを通じて適正な業務の遂行を確認する。

様式2－2　地区の概要

安岡地区（山口県下関市）　都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標：地区住民が気軽に集い、多世代が学び遊び、人を育てるコミュニティの拠点として、コミュニティ施設、支所、園芸センター及び図書館の機能を有する複合施設を整備し、また、多くの住民が複合施設に訪れたくなるように安心で安全な道路、公園、案内標識等の周辺環境整備やイベントを併せて行うことにより、コミュニティの活性化、賑わいの創出を図る。 目標1：地区公共施設の再編整備により、多世代の住民が気軽に集うことのできる多機能の複合施設整備を行う。 目標2：道路、公園、案内標識等の周辺環境整備やイベントを実施することにより、住民のコミュニティ活動への参加を促進する。	自治会、市民活動に参加している人の割合	単位：人数/年	53,971	R1	70,000	R7	129,196	R7
	イベント開催回数	単位：回/年	3	R1	5	R7	104	R7

道路（安岡富任50号線）

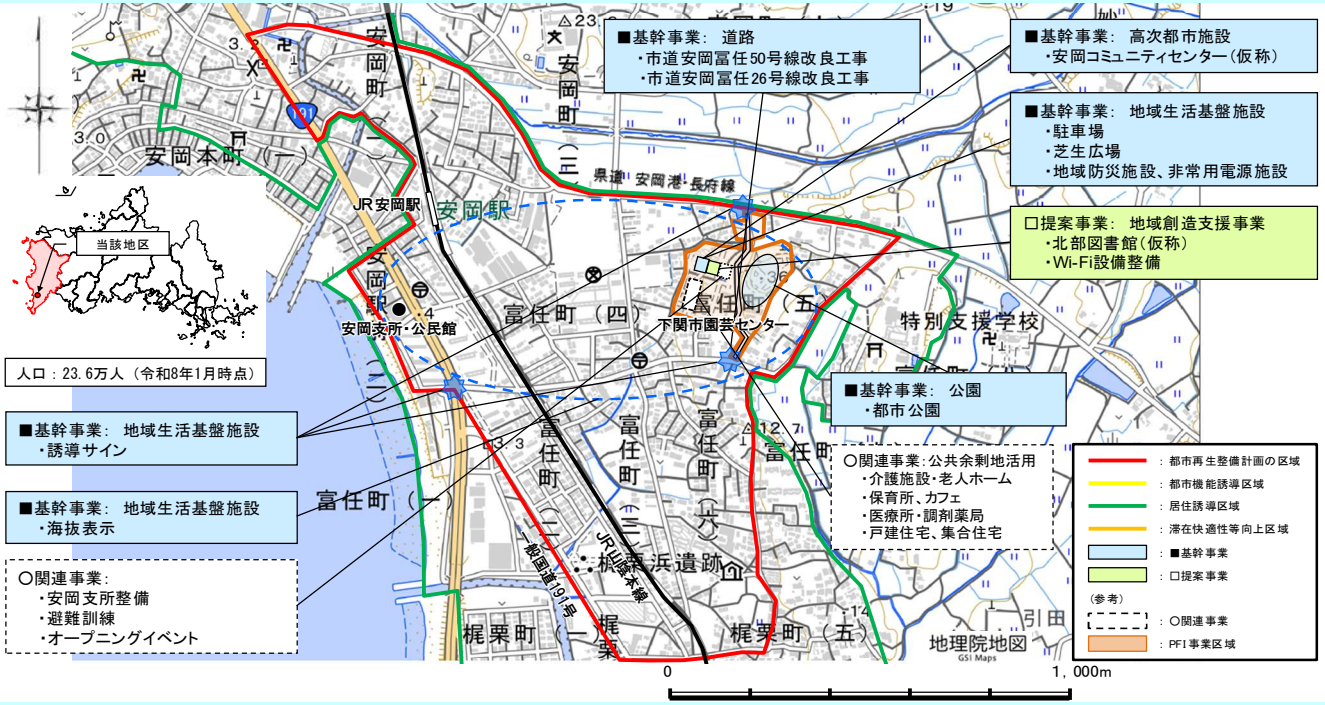


公園（都市公園）



地域生活基盤施設（芝生広場）

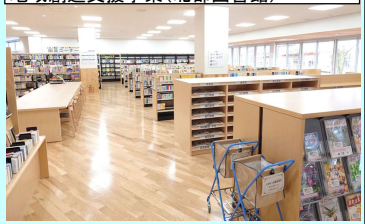




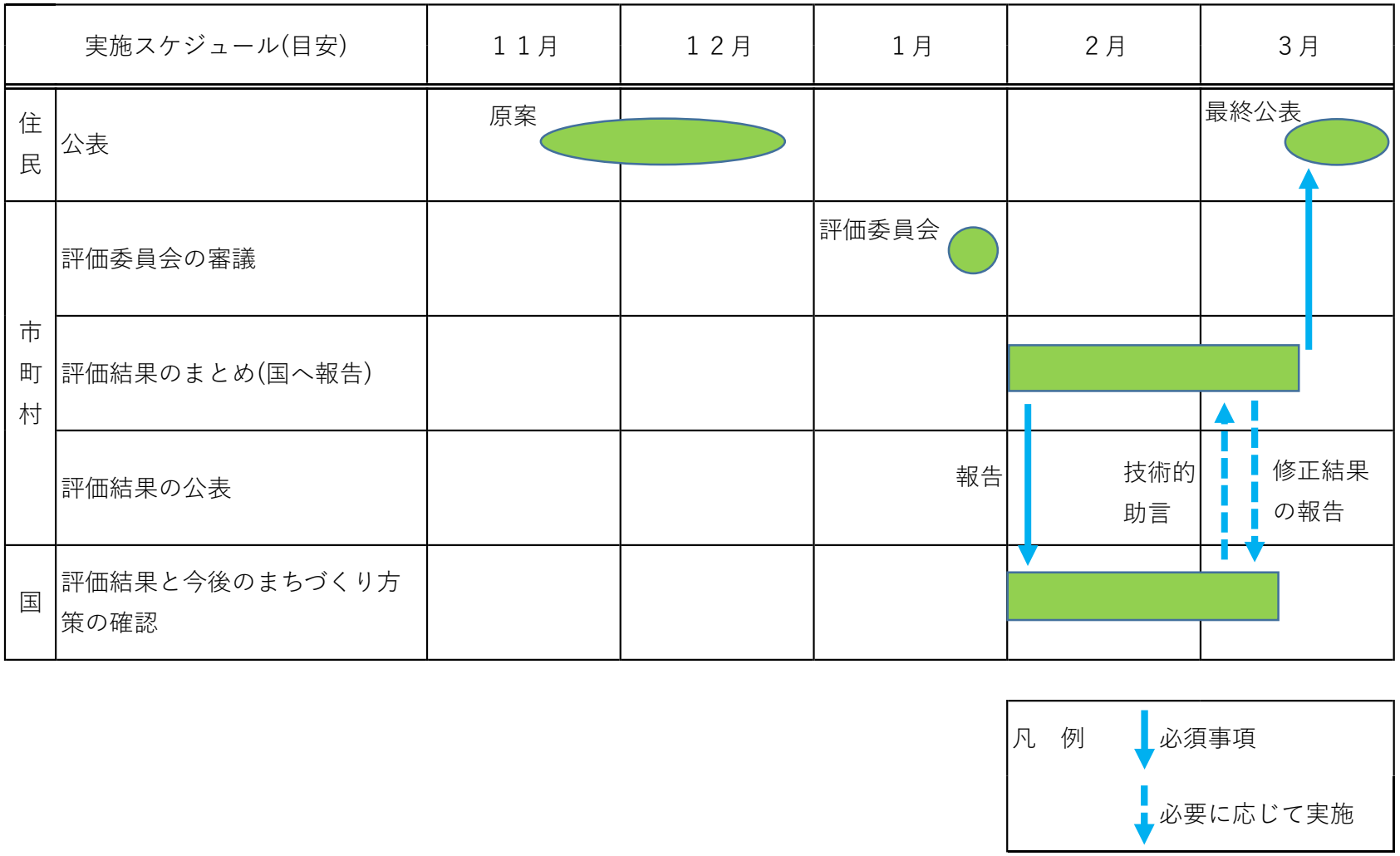
高次都市施設（安岡コミュニティセンター）



地域創造支援事業（北部図書館）



まちの課題の変化	・複合施設や周辺環境の整備により、地域の生活機能や活動スペースが充実したことで、多世代の住民交流やイベントが活発化し、地域コミュニティの活性化と新たな賑わいの創出が図られている。 ・建築物の耐震化や誘導サイン、Wi-Fi環境の整備などにより防災機能が充実したことで、災害時の避難空間が適切に確保され、市民が安全・安心に暮らし続けられる環境が構築されている。
今後のまちづくりの方策（改善策を含む）	コミュニティセンターをはじめとする各施設において、新たなイベント等を積極的に企画・開催することで一層の利活用を推進するとともに、利用しやすい環境やサービスの提供に向けた適切な維持管理を行う。


実施スケジュール(目安)
１１月
１２月
１月
２月
３月
住民
公表
原案
最終公表
市町村
評価委員会の審議
評価委員会
評価結果のまとめ(国へ報告)
評価結果の公表
報告
技術的助言
修正結果の報告
国
評価結果と今後のまちづくり方策の確認
凡　例
必須事項
必要に応じて実施